

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 岡本 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|------|
| ① 国語 | 41 人 |
| ② 算数 | 41 人 |
| ③ 理科 | 41 人 |

5 留意事項

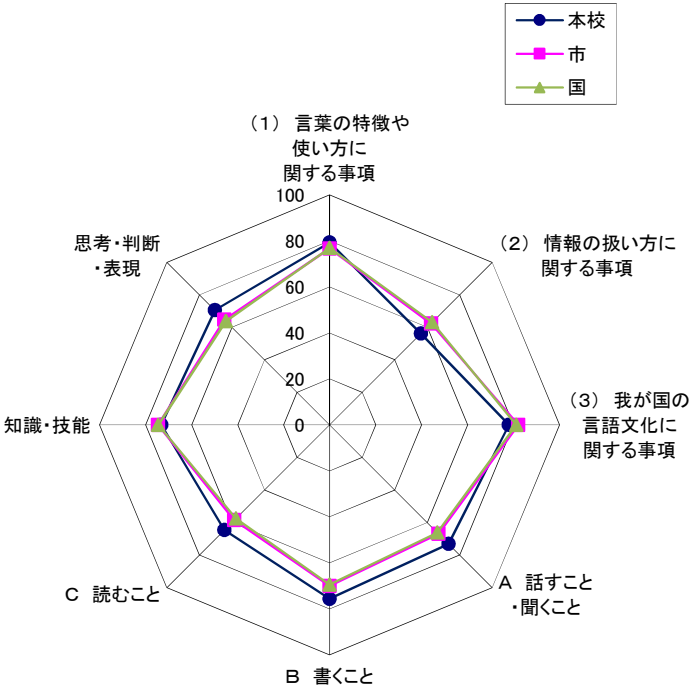
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.3	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	56.1	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.0	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	73.2	67.0	66.3
	B 書くこと	75.6	70.0	69.5
	C 読むこと	64.6	58.6	57.5
観点	知識・技能	73.2	74.5	74.5
	思考・判断・表現	70.5	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

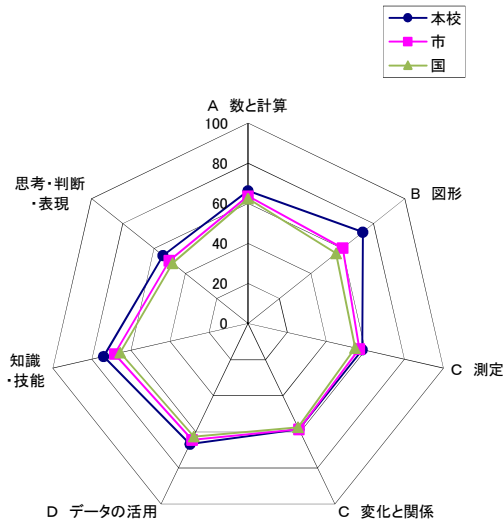
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均よりも2.4ポイント高い。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使えるかを問う問題が2問あり、1問目は82.9%で全国平均より1.3ポイント高く、2問目は75.6%で全国平均より3.5ポイント高かった。	・新出漢字が出た時には、漢字事典を活用したり、1人1台端末を利用したりしながら、適切に調べる習慣をつける。 ・漢字のみのノート練習にとどめず、文中で正しく使えるか、送り仮名の誤りがないかを確認しながら、漢字や語の正しい使い方を定着させる。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均より7ポイント低い。 ●情報同士の関係付けや、図による語句相互の関係表現を理解・活用できるかを問う問題の正答率は56.1%であり、全国平均より7ポイント低かった。情報を整理・関連付けの力に課題が見られた。	・1人1台端末を活用し、多様な資料を集めて整理する機会を設ける。 ・情報同士の関係性や、語句間のつながりを意識して表現できるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均より3.2ポイント低い。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解できるかを問う問題の正答率は78.0%で全国平均より3.2ポイント低かった。	・学級単位で図書室を活用したり、読書の時間を増やしたりして、日常的に読書に親しむ習慣をつける。 ・語彙を豊かにし、言葉の変化や使い分けに気付ける力を育成する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均より6.9ポイント高い。 ○自分の意図に応じて話の内容を的確に捉える力を問う問題では正答率82.9%で、全国平均より11.1ポイント高かった。	・国語科の授業に限らず、学校生活全般を通して「聴く力」を育成する。 ・ペア学習やグループ活動を多く取り入れ、相手の発話の目的や意図を意識しながら、内容を的確に聞き取れるようにする。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均より6.1ポイント高い。 ○文章の中心を明確にし、段落構成を考えながら書けるかに関する問題の正答率は78.0%で、全国平均より12.5ポイント高かった。	・条件や目的を設定した作文活動を増やし、理由や考えを明確にまとめる力を育成する。 ・互いに文章を読み合い、感想や意見を伝え合う活動を通じて、良い表現を見付ける力を養う。 ・国語に限らず、他教科や学校行事後にも文章を書く機会を設けることで、書くことへの抵抗感を減らしていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均より7.1ポイント高い。 ○文章と図表を関連付けて必要な情報を見つける力を問う問題では正答率58.5%で、全国平均より17.7ポイント高かった。 ○事柄や時間の順序を考えながら内容を把握する問題は正答率82.9%で、全国平均より1.3ポイント高かった。	・本文や設問で問われている事柄を的確に整理できるよう、重要語句に印をつけるなどの学習法を継続する。 ・文章を引用して自分の考えを説明する活動を取り入れ、読み取った内容を根拠にまとめる力を高める。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.2	63.6	62.3
	B 図形	73.2	60.4	56.2
	C 測定	58.5	56.9	54.8
	C 変化と関係	58.5	58.6	57.5
	D データの活用	66.8	64.4	62.6
観点	知識・技能	74.0	68.3	65.5
	思考・判断・表現	54.4	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

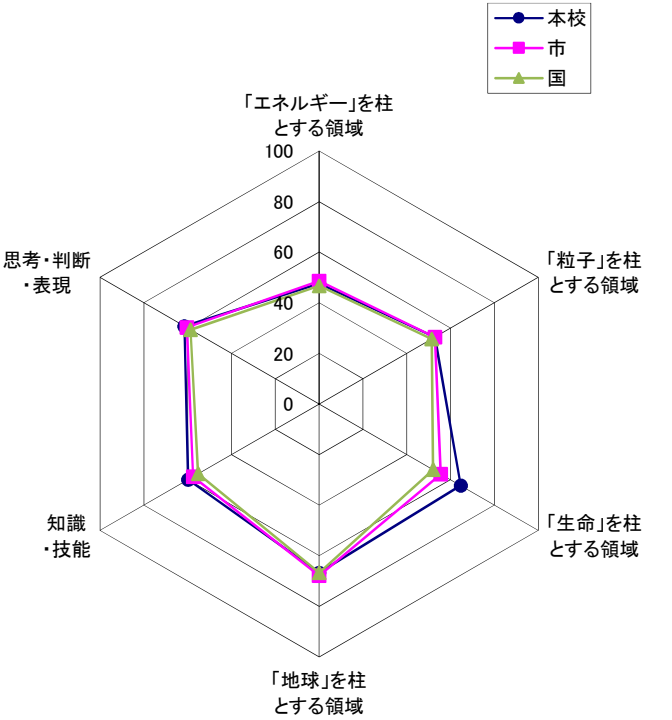
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
A 数と計算	・平均正答率は66.2%で、全国よりも3.9ポイント高かった。 ○数直線上に示された数を分数で書く問題の平均正答率は56.1%で、全国よりも21.1ポイント高かった。 ●分母の異なる2つの分数が、もとにする分数量のいくつかを記述で答える問題の平均正答率は31.7%で、全国平均よりは8.7ポイント高かったものの、正答率は50%を下回った。	・数直線を使って、単位分数を視覚的に表したり、分数の大小を比べたりしたことが、分数の基礎的な知識・技能の定着につながったと考えられる。今後も継続して指導していく。 ・分母の異なる分数同士の足し算については、今後は、もとにする数のいくつかをとらえ、計算するような数学的な見方・考え方について再度確認し、計算の習熟を図っていく。	
B 図形	・平均正答率は73.2%で、全国よりも17ポイント高かった。 ○コンパスを使って、指定された平行四辺形の描き方を答える問題の平均正答率は75.6%で、全国よりも17.3ポイント高かった。 ○図の中から、台形はどれかを選ぶ問題の平均正答率は70.7%で、全国よりも20.5ポイント高かった。	・今後も、図形の性質から辺や角の大きさを求めたり、作図したりできるように反復して指導していく。	
C 測定	・平均正答率は58.5%で、全国よりも3.7ポイント高かった。 ○はかりの目盛りを読む問題の平均正答率は、65.9%で、全国よりも5ポイント高かった。 ●使いかけのハンドソーブの残りの使用回数を、残量と1回の使用量(重さ)をもとに求め方を記述する問題の平均正答率は51.2%で、正答は約半数であった。	・今後も、算数や理科、家庭科など教科横断的に、はかりの読み取りについて、実際に重さを測る経験を通して、正しく読み取れるように指導していく。 ・1単位あたりの数量と、全体量の関係を捉えて計算できるように、数直線や表を活用した式の立て方に重点を置いて指導していく。	
C 変化と関係	・平均正答率は58.5%で、全国よりも1ポイント高かった。 ○新品のハンドソーブが何回分使えるか計算するために、伴って変わる2つの数量を見出す問題の平均正答率は、87.8%で、全国よりも5ポイント高かった。 ●10%増量したハンドソーブの量が、増量前の数量をもとにして、何倍になっているか答える問題の平均正答率は36.6%で、正答は半数を大きく下回った。	・授業の中で、問題から変数や比例定数を整理し、表に表したり、式を立てたりするように指導したことにより、数量の関係を見出すことができたと考えられる。今後も継続して指導していく。 ・割合の増減に関わる問題においては、基準量や比較量に合わせて、対応する指数がどのようになるか数直線で表す活動を多く設定し、数量と割合を正しくとらえられるように指導していく。	
D データの活用	・平均正答率は66.8%で、全国よりも4.2ポイント高かった。 ○縦と横の2つの方向にデータが並べられた表(以下:「二次元の表」という)から条件に合った項目を選ぶ問題の平均正答率は73.2%で、比較的高い正答率であった。 ○ある都道府県のプロッコリーの出荷量が、増えたかどうかグラフを選んで読み取って判断し、記述して答える問題の平均正答率は48.8%で、全国よりも17.8ポイント高かった。	・授業において表やグラフを読み取り、それらから分かることを説明し合う活動を取り入れてきたことにより、表やグラフを活用して答える力が高まったと考えられる。今後も継続して指導していきたい。 ・出荷量の数量ではなく、割合に着目した児童も少なからずいたため、今後は割合と数量の違いについて再確認し、正しくデータを読み取ることができるよう指導していく。	

宇都宮市立岡本小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	47.6	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	52.8	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	64.6	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	66.7	67.9	66.7
観点	知識・技能	59.8	57.5	55.3
	思考・判断・表現	61.5	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	・平均正答率は47.6%で、全国平均より0.9ポイント高い。 ○乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかを問う問題の正答率は、全国より5.9ポイント上回った。 ●身の回りの金属について電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあることの知識が身に付いているかどうかをみる問題の正答率は2.4%で、全国より8.2ポイント下回った。	・電気と磁石についての実験の時間を十分に取し、繰り返し実験したり、納得できるまで条件を変えて試したりする体験活動の時間を確保し、知識・技能の一層の定着を図っていく。また、違いについて説明する際は、Aは○だがBは△であると、比較する両方について述べなければ違いが明確にならないことを意識づけ、過不足なく説明する習慣を付けるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	・平均正答率は52.8%で、全国平均より1.4ポイント高い。 ○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識をもとに概念的に理解しているかを問う問題の正答率が73.2%で、全国より9.0ポイント上回った。 ○水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現できるかを問う問題では、正答率が56.1%と低めであるが、全国平均より5.5ポイント上回った。	・実験や観察を通して、水の状態変化に関する理解が深まり、水の三態変化の概念が概ね定着している。水の温まり方について、既習事項とつなげて、加熱器具や示温インクの安全な使い方や手順を丁寧に確認し、金属や空気などの生活の中で見られる現象について話し合う活動を今後も取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	・平均正答率は64.6%で、全国平均より12.6ポイント高い。 ○発芽の差異点や共通点を基に新たな問題を見出し、表現することができるかを問う問題の正答率は51.2%で、全国平均を21.3ポイント上回った。 ○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかに関する問題での正答率は58.5%で、全国平均を12.9ポイント上回った。	・豊かな自然環境で生活していることで自然の様子を体験的に捉えていると考えられる。今後も、身近な環境を活用して、生き物の特徴や生態への興味関心を持続させるとともに、十分な体験活動を通して実感を伴った理解を図ることができるよう、環境整備を行っていく。
「地球」を柱とする領域	・平均正答率は66.7%で、全国平均と同じであった。 ○氷が溶けてできた水が海に流れていくことの根拠について学習したことに関連付けて知識を概念的に理解しているかを問う問題の正答率は65.9%で、全国平均を5.0ポイント上回った。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかを問う問題の正答率は65.9%で、全国平均よりも12.1ポイント下回った。	・粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについては、流れる水の量の変化の違いや、土地の変化と関連付けて、実験結果を吟味し、生活の中で見られる現象について様々な可能性を話し合う活動を取り入れることで、概念的な理解につなげていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○自分に関するものとして、「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的回答は97.5%で、全国平均より10.6ポイント高く、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する肯定的回答は87.5%で、全国平均より16.9ポイント高い。今後も学級活動や児童会活動などの特別活動を中心とした、主体的、自治的な集団活動を通して自他とよりよく関わられる児童の育成に努める。	
○生活に関するものとして、「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対する肯定的回答はいずれも全国平均を上回っている。養護教諭を中心とした日頃の保健指導や長期休業前の生活指導の成果が表れたと考えられる。引き続き職員間の連携や保護者への啓発に努める。	
○学習に関するものとして、「分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」に対する肯定的回答は92.5%で10.8ポイント高い。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的回答は97.5%で11ポイント高い。日頃より、担任が児童一人一人に寄り添った指導をしてきたからだと考えられる。	
○「読書は好きですか」に対する肯定的回答は95%で25.3ポイント高い。1人1台端末を使ったクラスルームによる図書関係の情報発信や図書委員会によるイベントの実施、読み聞かせなど、児童が読書に興味関心をもてる取組をしてきた結果と考えられる。引き続き児童の興味関心を高める取組を工夫していく。	
○ICT活用に関するものとして、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか」に対する肯定的回答は95%で、全国平均より13.2ポイント高く、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか」に対する肯定的回答は85%で、全国平均より15.7ポイント高い。学習や特別活動の中で、ICT機器を活用できる場面を見付け、自分たちで有効に活用できる場面や方法を考えて学校生活に生かすことができている。今後は、デジタルシティズンシップ教育の視点も踏まえて、よりよく安全に活用できるよう指導に努める。	

宇都宮市立岡本小学校 (第6学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること	
重点的な取組	取組の具体的な内容
児童が言葉の力を伸ばす工夫	授業で各教科における重要語句を繰り返し意識させ、自分の考えを言語化する場の設定をする。 また、話合いの話し型・書き方の型を提示し、それをもとに友達と論理的に話合いを進め、課題解決に見通しをもって取り組めるようにする。
児童が自信をもって伝え合うための工夫	各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い、課題は何か、何をどのように学んだのかを気付けるようにする。また、本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行い、定着を図る。 自分の考えを適切に言語化できるよう、学習形態を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりし、学習に取り組むことができるようにする。
取組に関わる調査結果	
「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は80.0%で、全国平均より、2.2ポイント高い。 「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」との質問に対する肯定的回答の割合は90%で、全国平均より、5.1ポイント高い。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」との質問の肯定的回答の割合は95.0%で、全国平均より3.1ポイント高い。 個人として自分の考えを言語化するすることに不安がある児童も、話し型・書き方の型の活用や友達との対話を通じた協働的な学びを通して、主体的に課題の解決に取り組んでいることが伺える。	
5年生までの学習の中でPC・タブレットを使用することについて(文章を作成する、情報を収集する・楽しみながら学習を進めることができる・友達と考えを共有したり比べたりしやすくする)の質問項目においての肯定的回答の割合が90%を超え、全国平均よりも上回っていた。 「国語の授業で、目的に応じて簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか」との質問に対する肯定的回答の割合は82.5%で、全国平均より0.7ポイント高い。また、「目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけていますか」との質問に対する肯定的回答の割合が87.5%で、全国平均より8.3ポイント高い。 ICT機器を効果的に活用したり、担任や教科担任が適切に支援を行ったりした結果、自分の考えを言語化することへの抵抗がなくなり、見つけたことや考えたことをもとに自分の思いを伝えようとする姿が見えた。	

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと		
調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
ICTにおいて、授業等での活用が進んでおり、児童もその扱いには慣れているが、情報同士の関係づけや、時間の経過による言葉の変化や時代による言葉の違いの理解が低い傾向にある。また、国語科の観点別にみると、知識・技能の正答率が全国平均よりやや低い傾向にある。各教科において、留意や必要な情報を活用し、得た情報を効果的に活用することや、言語そのものの理解を深め、語彙力を高めていくことが課題である。	各学年、各教科で教科の重要語句を理解させ、既習の語句や内容を繰り返し取り上げ、自分で考えを書いたり説明したりする言語活動を取り入れる。また、情報を効果的に活用する方法や、複合的に取り入れた理解を教科横断的に取り入れる。教師が児童の発言をコーディネートし話合い活動を充実させる。	どの教科においても、言葉を意識したやり取りを積極的に取り入れ語彙を増やすとともに、複数の資料から必要な情報を比較したり、検討したり、関連付けて考えたりする活動の充実を図ることで、読解力の伸長を図る。また、教科の重要語句を使い文字数や段落などの条件を付け加えた文章を書く活動を取り入れ、的確に表現する方法を習得させる等、言語活動の質を高める。さらに、教師がモデルとなる文章を提示するなど、型を示し、それを参考に、自分の考えや学習で分かったことを論理的に書く活動の充実を図ることで、表現力の伸長を図る。 教科横断的な学習として、記録、要約、説明、論述、話合い等の言語活動を設定していく。 振り返り活動では、振り返りの視点を明確にし、力がどのくらい身に付いたか授業者と学習者ともに確認しフィードバックを返すことで質を高めていく。